

## 第4回ゼロカーボン匠瑳推進協議会報告

2022年6月6日

八日市場ドーム控室

<参加者> しおさい電力（鶴沢）、市民エネルギーちば（椿、宮下）、FJTEC（松原）  
ISEP（松原、岡村）、大塚商工会長、伊藤（市・企画課）、内山（市議）

### <報告事項>

#### 1 第二回申請受付の情報

○山口環境大臣が第2回目の募集を7月26日～8月26日まで行うと発言。

#### 2 ISEP の飯田さんと本件の事務方の責任者である環境省の上田統括官と近藤参事官の 話の要旨です。参考になります。

①第1回目選抜の26件は、短期間の公募期間の中で熟度や実現性の高い計画を出してきており、もともと準備を積み重ねて来ていた、文字どおり「先行地域」。

②第2回目以後は、準備期間があるので、さらに熟度や実現可能性、他地域と比べた特徴、地域課題の解決などが問われる。

③諸富委員長以下の選考委員会は、事務方から独立してしっかり厳しく審査されている。

④今回の5年枠の交付金は、環境省としても初めての試みで自由度をもって対応したい。たとえば初年度交付金が諸般の事情で完了しなくても、5年の枠で見ているので自由度はあり、また翌年度以降の計画も当初の趣旨を損なわなければ、かなり柔軟に見直しても良い。また、通常の補助金は年度末に検査・額の確定をしてからの支払いだが、本件は柔軟に考えている。

⑤東北地方環境局も、この春まで2名体制を10名体制に拡充し、どんどん照会し活用して欲しい。ただ、不明点は本省と連動するので、本省への照会もしても構わない。

⑥昨日は東北地方環境局主催で、農政・経産など各地方事務所を集め、また東北地方の脱炭素先行地域の首長も集めた会議もしており、環境省としては他省庁にも本予算と連動した各種補助金なども拡充するよう、呼びかけている。

⑦再エネ規制問題（連系枠や負担金、垂直ソーラーの柵塀問題など）も、まずは東北電力や経産省と協議して欲しいが、その協議状況を随時共有してもらえれば、省庁連携でも協議のテーブルに載せてゆく。

⑧垂直ソーラーには非常に関心を持っており、詳細を教えて欲しい。

3 市民エネルギーちばの東さんが脱炭素先行地域の選定委員会の座長の京都大学の諸富先生の主催する講座で匠瑳の豊和地区でのソーラーシェアリングの取り組みを報告。売電収益から地域基金を「村づくり協議会」に出して地域のために活用している点に注目を集め、環境省が掲げている「地域共生・裨益型再エネ」として大きな評価を得た。

## <協議事項>

### 1 今後の進め方について

○第二回目の申請に出すことを再確認し、そのためには計画書（申請書）作成を急ぐ必要があることから、具体的な作業の進め方と協議会の役割について以下のとおり確認した。

- ① 7月26日～8月26日の申請期間というスケジュールを踏まえて、7月中には申請案をまとめて市長に提出。市との調整をした上で申請を行う。
- ② 事務局とISEPを中心に、実務的には市（企画・環境）や事業者（市民エネルギーちば、しおさい電力、FJTEC）の協力を得ながら申請案をまとめ、協議会に諮った上で協議会の案としてまとめる。
- ③ 協議会としては、参加者を増やし、ゼロカーボン匠瑳への関心を醸成しつつ、市長への働きかけを強め、決断を促す。

### 2 エリア設定について

○事務局から出された案を基に検討し、以下のとおり進めることとなった。

○市役所などの公共施設に設置可能な太陽光発電量（概算）について、FJTECさんが6月15日までにまとめることとなった。

- ① 添付の案を前提にして申請案づくりを進めて行き、その過程で必要となる修正を行い、申請案をまとめることとする。
- ② 先行地域に指定され、計画を進めていく上では、必要なエリアの修正は行っていく。

### 3 脱炭素で匠瑳を元気に！ 「ゼロカーボン匠瑳を考える会」（仮称）

以下のとおり進めることとなった。案内は、市議や市長、市役所幹部、関係事業者や団体などに送ることとし、チラシはつくらないこととなった。

① 日 時 6月25日（土）午後1時30分～3時（予定）。

② 場 所 ふれあいセンター 会議室

③ 参加人数 30～50人

④ 内 容

○脱炭素社会の必要性と先行地域のメリットを考える

講師：田中信一郎氏（千葉商科大学 基盤教育機構 准教授）

○脱炭素先行地域「大潟村」の取組みと描く未来

講師：飯田哲也氏（環境エネルギー政策研究所代表理事）

○ゼロカーボン匠瑳に向けての取組み

報告：ゼロカーボン匠瑳推進協議会事務局

### 4 次回協議会 6月30日 10時～ 市議会委員会室